

曲亭翁
遺集

女
水
傳

第十卷
上帙

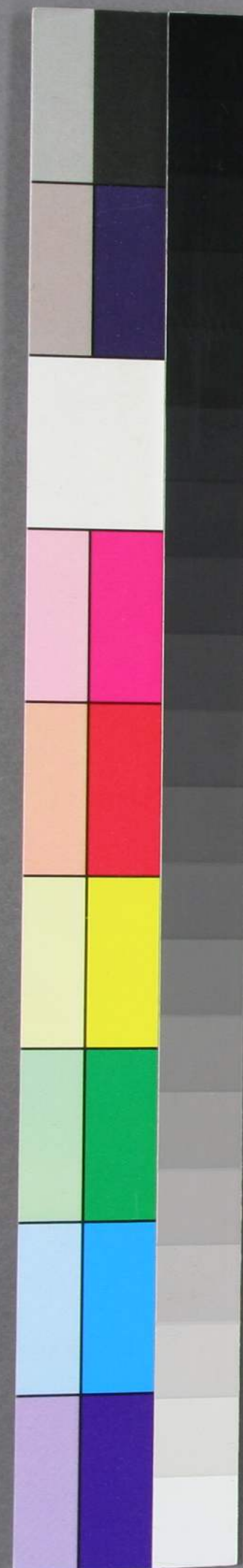
笠亭仙果編次
一陽齋豐國画



辛
亥
春
新
刻

松
壽
堂
梓

13
3088
2



曲亭翁
女水許傳
十四編

上の
巻



東都西國
大平梓

壬子
春

新板

曲亭翁

女水許傳

十四編
下栱

笠亭仙果編次
一場齋豐國画

松壽堂梓

國曆連

へ13特
3088
2

辛亥春新刻

東都西国吉川町

大黒屋平吉板

女水滸傳

十四編

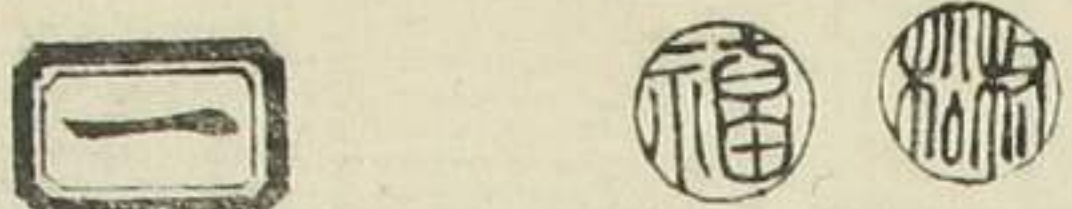
上帳上卷

笠亭仙果編次

一陽齋曲豆園画



田飼画



宋江晁蓋没後大圓和尚不驚之盧俊義の英雄も出く頗不慕以兵用が奇計
 落草せしめ舊好の諸將の情け背くまふ尊敬第一の座を譲んと絶不弟二位の着衣
 七百六人の上小立死入徳ありのるめども唐本の文義ありは通俗本を見時其智其
 伎其人材関勝林冲幾許勝る其勇其力魯智深と武松と競へ如何らむ婦婢奸奴
 の不義を曉らば燕青と疑ひ楊雄と遙劣で單身七絶の旗と建梁山泊と劫さんとき
 あ実小匹夫の所為か李逵をどことするあらは此許の人物と宋江然程欽慕せ深意
 の窺知られさ此其彼盧俊義の准た玉桐と手力胡蝶が弟女と中途小と枉死世
 姉の忠義を継ぐ也且仇の討せんの大箱が信義我れらる辛々辻褃合まれ
 父賈氏李固が密夫一條縋らめられぬ小夜衣重て男妾も色子も作られ
 目と閉て南無三宝でまきまきと興る事共多し此等のもを批評めり
 記さる猿の人もこれ六借さるる序がるる女水滸が安くも板元の好まざる

嘉永四年正月新刻

笠亭仙果漫記



女水滸一四二



女医者十四上

浪鼓音鳥



秋のひまわり

口のひまわり
秋のひまわり

福女



乃山
乃山
乃山

福女

折枝花笑

吉一室



玉螺今
相贏

折花
乃山
乃山



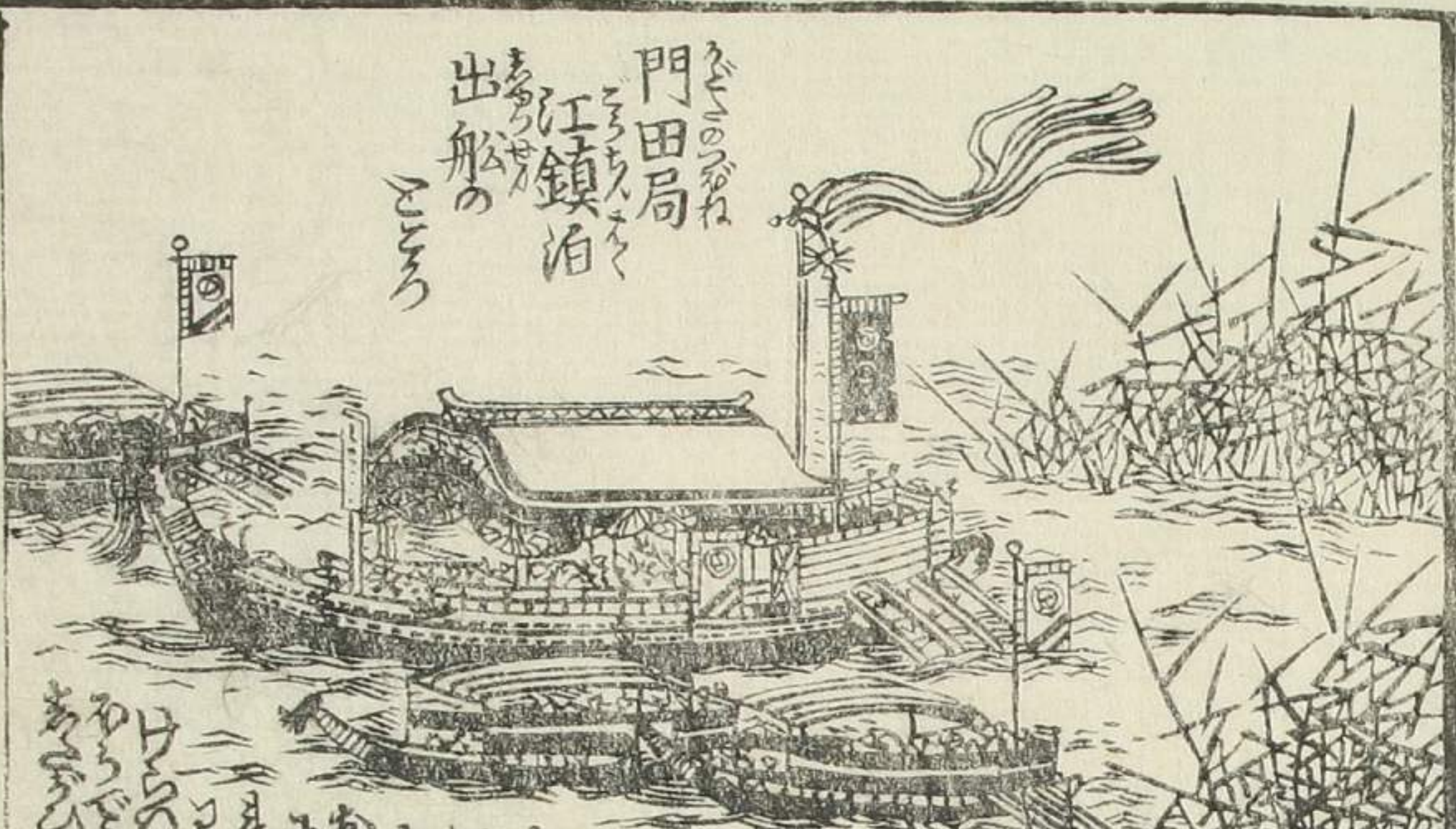
日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり

日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり



日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり

日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり
 日美一がまのあまの山へ
 上り山に二人の女の止まり



門田局の舟屋に
江鎮泊の舟屋に
出船の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

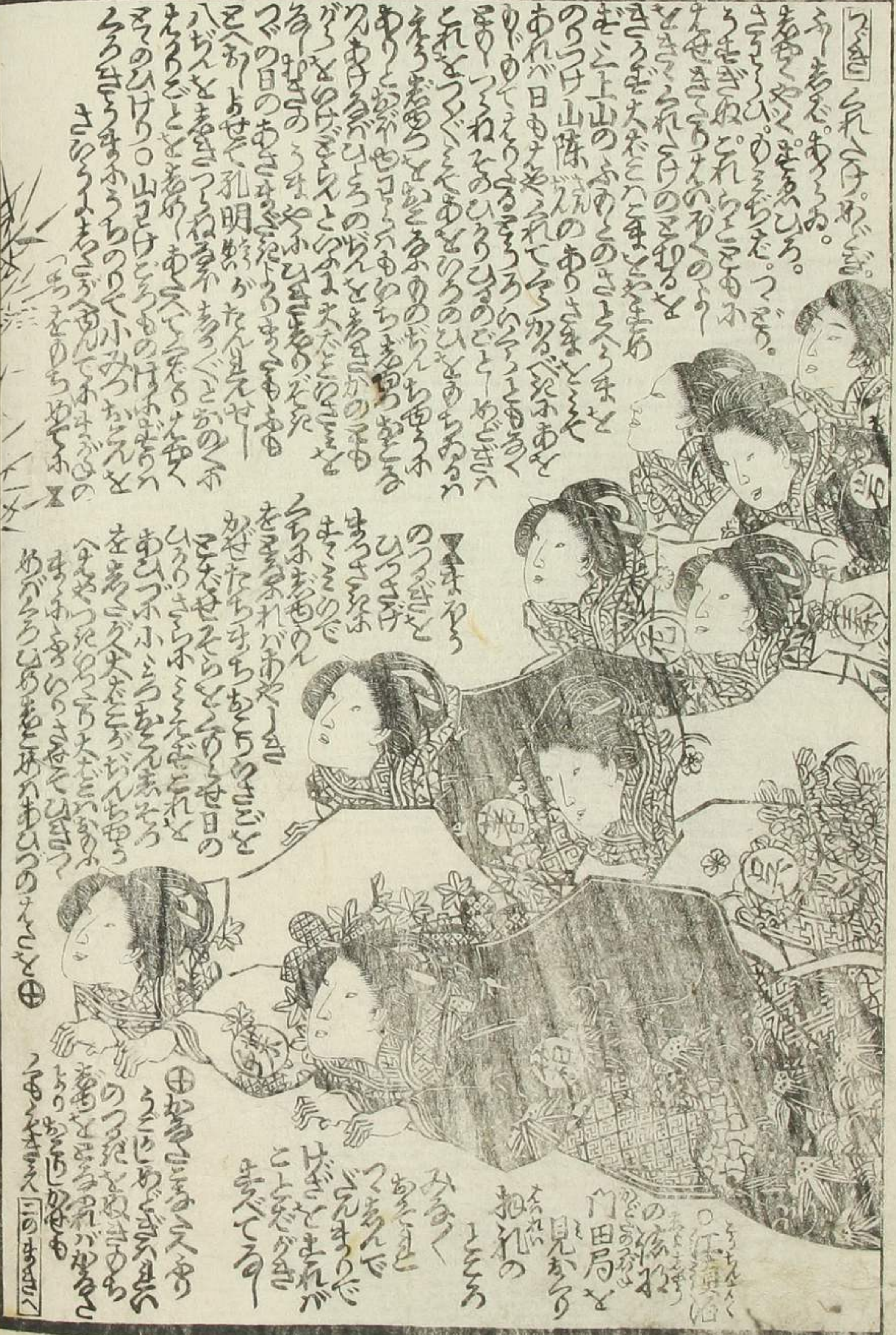
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に
舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に

舟屋の舟屋に





女水戸十四



女水戸十四



ついでに下木ゆくと...
せきりてちちありて...
よのひの五入...
ついでに下木ゆくと...
せきりてちちありて...
よのひの五入...
ついでに下木ゆくと...
せきりてちちありて...
よのひの五入...



あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...
あつちのふと...





千代田の
 御前
 御座
 御座

御座の
 御座の
 御座の
 御座の



五人の...
 五人の...
 五人の...
 五人の...
 五人の...

七人の...
 七人の...
 七人の...
 七人の...
 七人の...

八人の...
 八人の...
 八人の...
 八人の...

一陽齋豊国画

辛亥春
新刻
下れ
巻

笠亭仙果編次



廿四

廿四

笠亭仙果編次
一陽齋周豊國画

女乃游傳

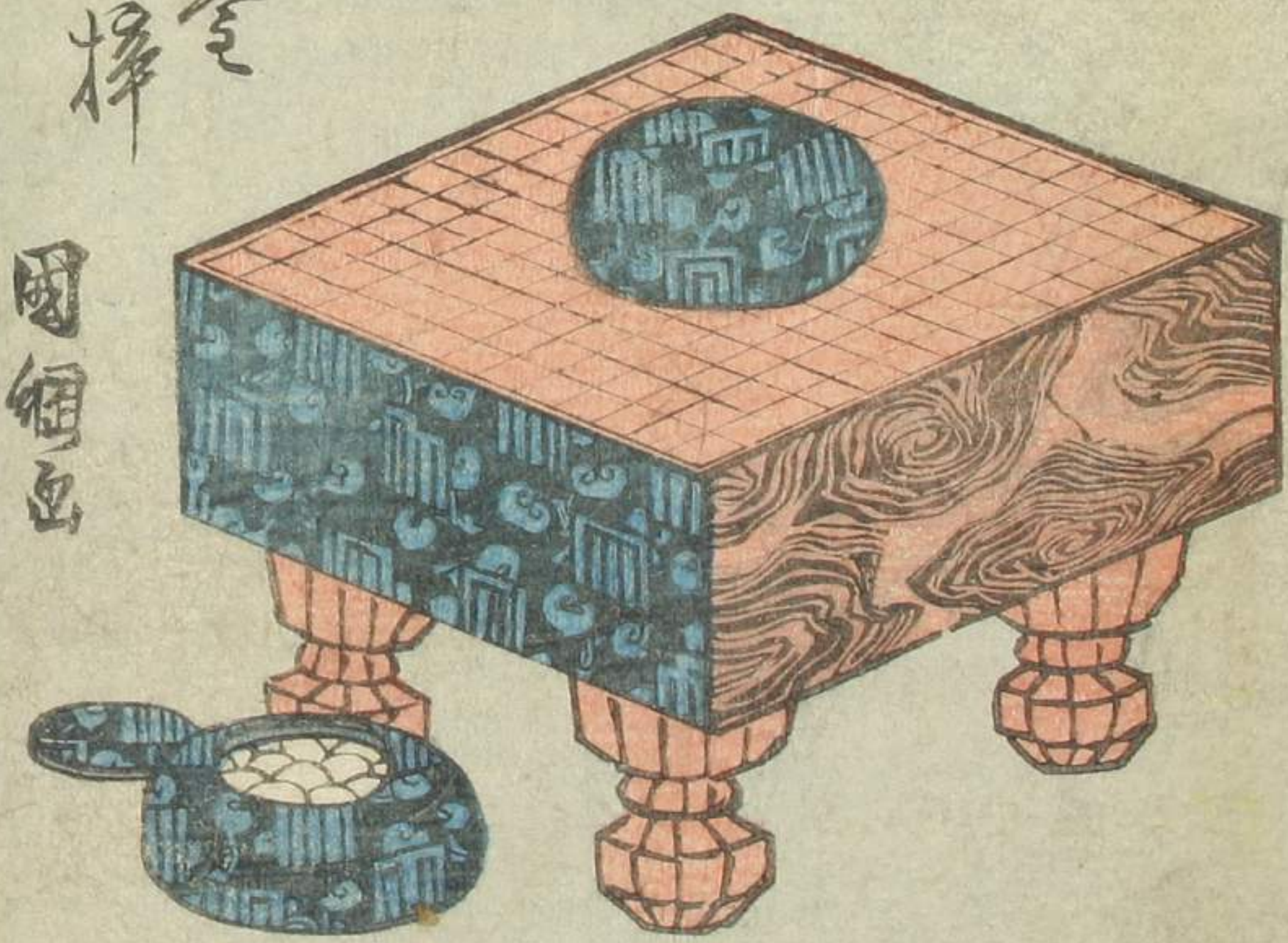
十四宮田上帳

下ノ巻

辛寅妻 春木の巻

彩板 上様

國相画



三



女乃游傳十四宮田上帳



女水滸十四

十一





Vertical Japanese text columns on the left page, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period book illustrations.

Vertical text on the left margin of the left page.



Vertical Japanese text columns on the right page, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period book illustrations.

Vertical Japanese text columns on the right page, continuing the text from the illustration area.

Vertical text on the right margin of the right page.





女水許十四上

十二



此の如くは女の毎日の
生活の様子を写したものである
たゞにその
まじりあつた
もの
里の生活の様子
を写したものである
たゞにその
まじりあつた
もの

此の如くは女の毎日の
生活の様子を写したものである
たゞにその
まじりあつた
もの

四月
の
生活の様子
を写した
ものである
たゞにその
まじりあつた
もの



左の女は魚を
 右の女は
 桶に
 黒旋
 圃

此の女は魚を
 右の女は
 桶に



此の女は魚を
 右の女は
 桶に

此の女は魚を
 右の女は
 桶に

笠亭仙果編次

上ノ巻



松壽堂梓



仙果作
豊國画

清書
金川
反りもせど

仙果作の巻は、仙果の物語を、
豊國画の筆で描き、清書の
筆で書かれた。金川の
反りもせど、

女水滸十四

二十



曲亭翁

女水滸傳

第十四編

下帙

上ノ巻

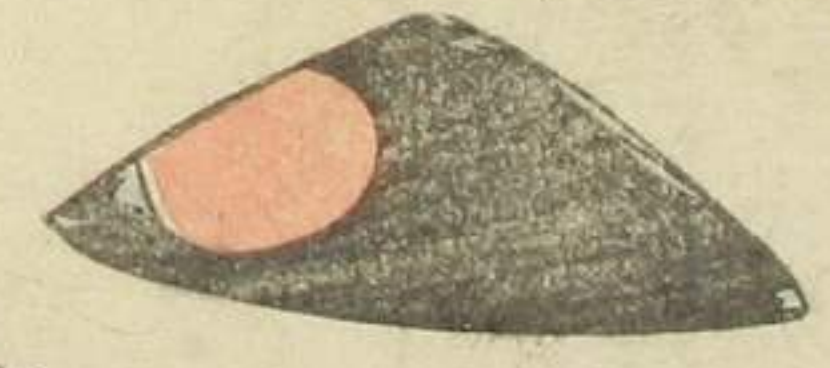
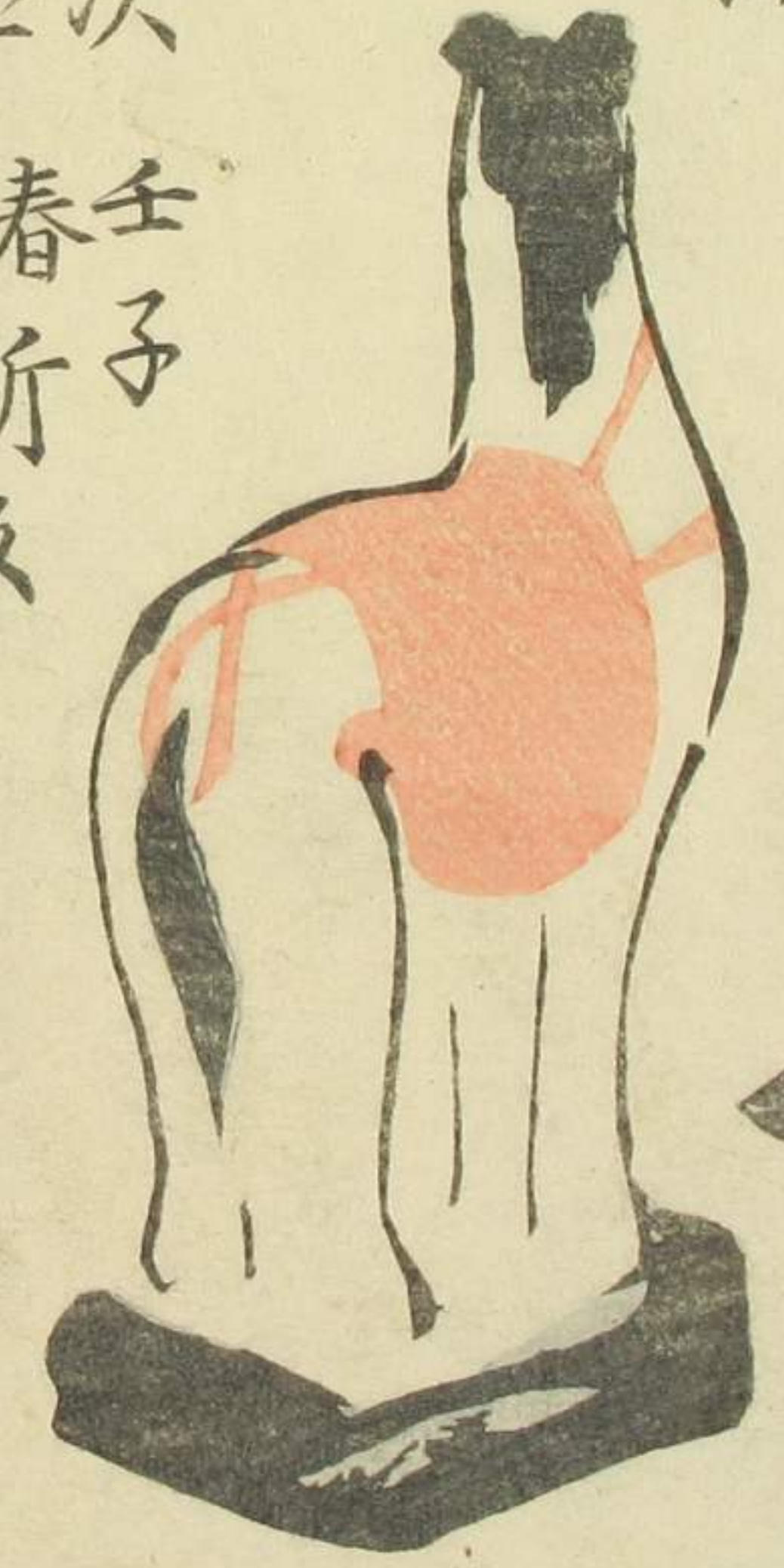
笠亭仙果編次
一陽齋豊國画

壬子 春新板

東都西國

大黒屋

平吉梓



女史 并傳十四下

酒
罍

梅枝
結び
か
香
知
ま

赤
思
文
袖
の
香



斑
駒
面
高

鳥
居

おの
名
美
馬
羽
神
の
ち



太
刀
野
関
屋

女史 并傳十四上

此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...



此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...

此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...



此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...
 此の山は... 此の山は... 此の山は...



Handwritten text in the right margin, likely a title or chapter heading.

Small handwritten text or mark at the bottom right of the page.



ハミさんせいのき
とておかし
あまの
るんの
さき

きげれハミさんせいのき
とておかし
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき



ハミさんせいのき
とておかし
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき

ハミさんせいのき
とておかし
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき
あまの
るんの
さき

一陽齋豊国画

下卷

曲楽翁 女木辭 傳十 編下 快四

壬子初春 新刻



Vertical text on the right edge of the page, likely a publisher's mark or additional title information.



女水許傳十四下

十一

曲亭翁

女水

辭傳

第十四篇

下帙 下巻

笠亭仙果編次
一陽齋豊之國画



壬子
新板



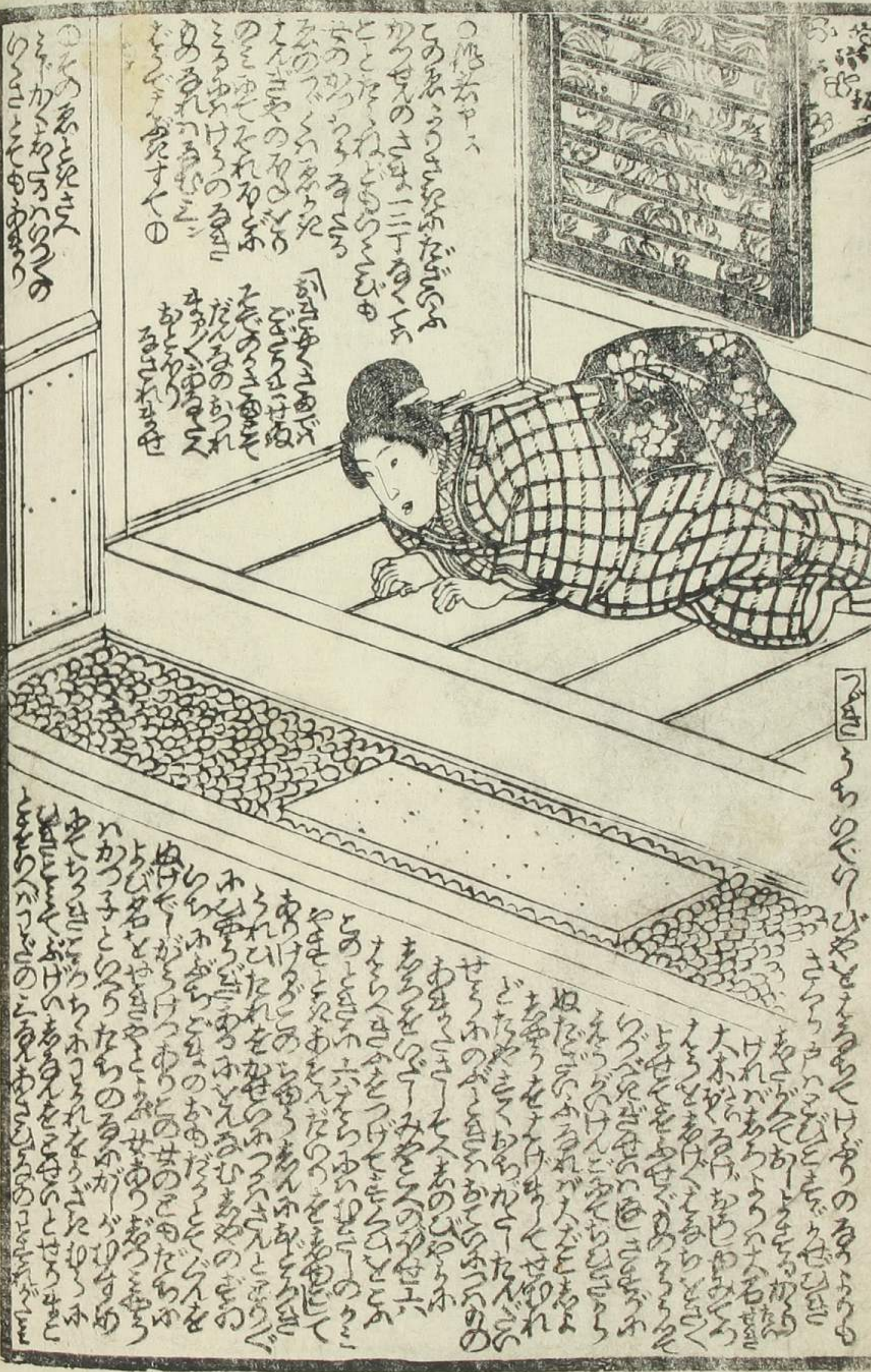
西國吉川町
大黒屋平吉
裁梓

木刀野道場



木刀野道場

十二



この女は...
かみかみ...
この女は...
かみかみ...
この女は...
かみかみ...

この女は...
かみかみ...
この女は...
かみかみ...
この女は...
かみかみ...

木刀野道場



九十九

とありゆかり
○このときふたごを
らりまうたまちうく
かりまうり

「ねんさんのこころえさ
まじりまもるいんまぬ
とらちこころえさ
まじりまもるいんまぬ

「大いんたの
えらり
めらり
まらり



○あちあちが
ちゆうちゆう
おれいれ
おれいれ

○あちあちが
ちゆうちゆう
おれいれ

「大いんたの
えらり
めらり
まらり

「大いんたの
えらり
めらり
まらり



「ねんさんのこころえさ
まじりまもるいんまぬ
とらちこころえさ
まじりまもるいんまぬ

「ねんさんのこころえさ
まじりまもるいんまぬ
とらちこころえさ
まじりまもるいんまぬ

「ねんさんのこころえさ
まじりまもるいんまぬ
とらちこころえさ
まじりまもるいんまぬ

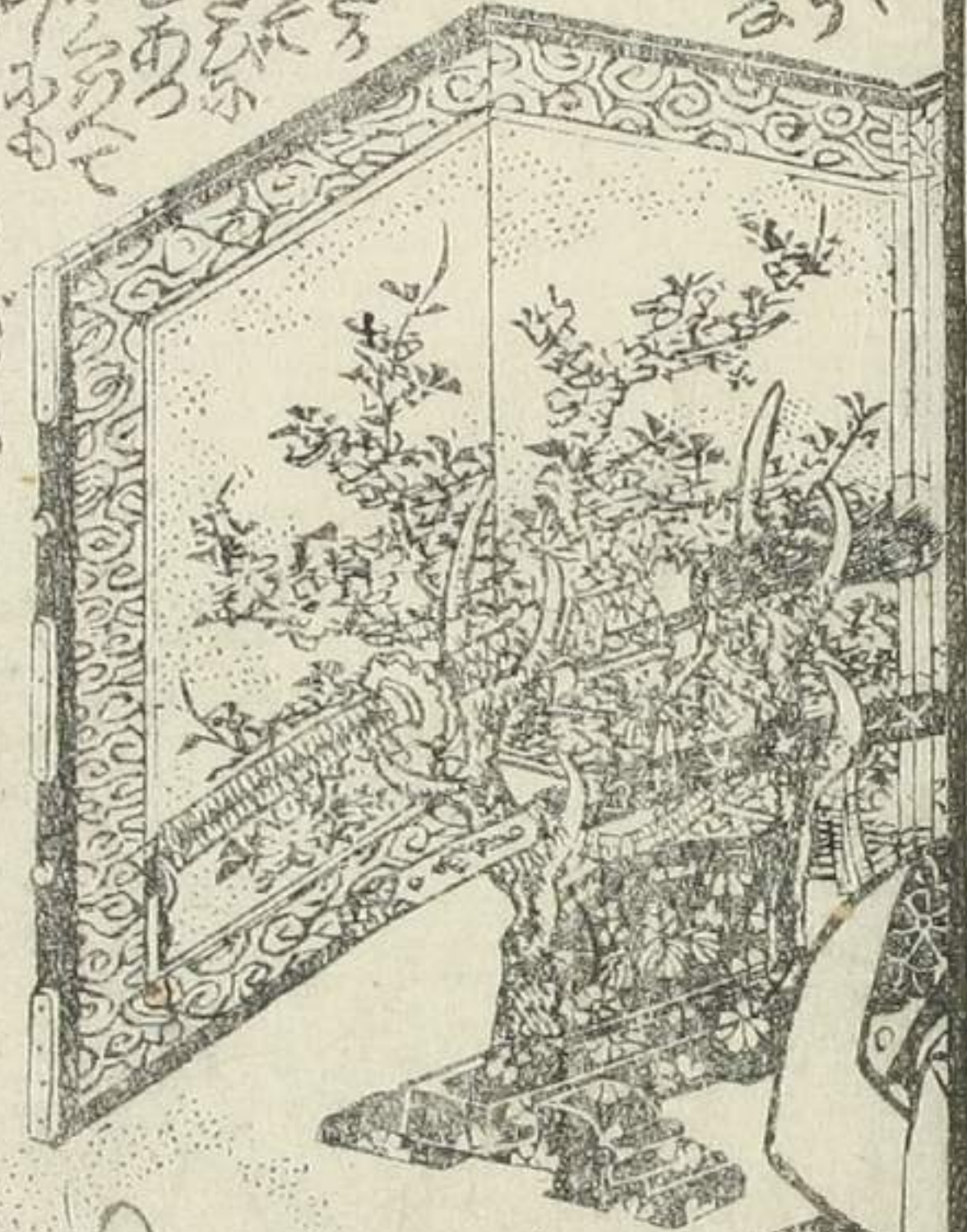
女水許傳十四下



あんなに...
さあ、あんなに...

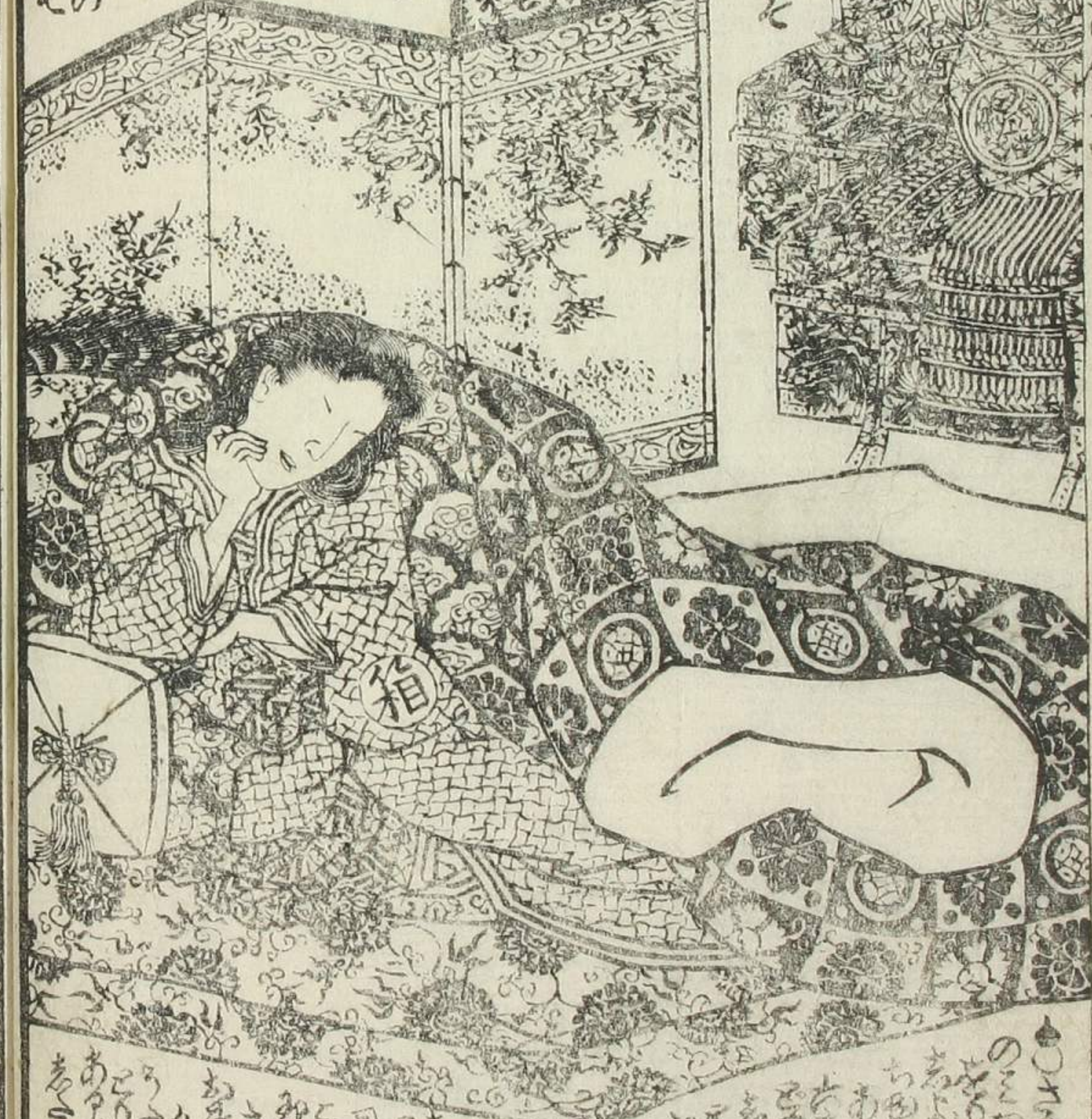


あんなに...
さあ、あんなに...



あんなに...
さあ、あんなに...

あんなに...
さあ、あんなに...



あんなに...
さあ、あんなに...



目下
それ
かみん
かくら
おつ

ひな
むら
おつ

あ
け
お

あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お



あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お

あ
お
お

嘉永三年戊辰新春新板目錄

二奥奉公^{オウホウキョウ}編娘^{ヒメ}一代成人^{トウシチウジン}双六^{シュウロク}万亭應賀作^{マンテイオウカサク}陽齋豐國画

倭文庫^{ヤマトブンクウ}太子^{タウシ}双六^{シュウロク}万亭應賀作^{マンテイオウカサク}陽齋豐國画

武藝立身館^{ブゲイテイシンカン}双六^{シュウロク}万亭應賀作^{マンテイオウカサク}陽齋豐國画

奥奉公^{オウホウキョウ}出世^{ウチセ}双六^{シュウロク}万亭應賀作^{マンテイオウカサク}陽齋豐國画

將^{オウ}碁^{オウ}双六^{シュウロク}万亭應賀作^{マンテイオウカサク}陽齋豐國画

金地本錦繪團扇^{キンヂノホンニシウエダマウ}元大坂町代地角 上州屋重藏版

豐國画

仙果作



豊國画の仙果作は、江戸時代の浮世繪の一種として知られる。この絵は、豊國画の仙果作の傑作とされている。仙果作は、仙果の採集や販売を主題とした絵画であり、江戸時代の庶民生活の一端を写し出している。この絵の構図や表現手法は、当時の浮世繪の特徴をよく表している。仙果作の絵は、多くが江戸の風景や人物を描き、その生活感を伝えている。この仙果作の絵は、その中でも特に有名なものとして知られている。

清書 川金

